

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第148回

(2025年1～3月期)

令和7年5月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2025年3月1日

3. 調査期間 2025年1～3月期

4. 調査対象企業数 380 企業（うち回答企業数 124 企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数 19 企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数 55 企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数 25 企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数 25 企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DI とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、この DI の変化を分析することにより経済動向の判断を行います。この DI は、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス (+) となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス (-) となります。DI については数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況D I】

今期の業況D Iは、全体で－26。前期（－25）比は－1ポイントとなった。また前年同期（－24）比では－2ポイントとなった。

業種別では、**建設業－21**（前期比－4、前年同期比＋11）、**商業・サービス業－28**（前期比＋14、前年同期比－2）、**機械金属製造業－13**（前期比－26、前年同期比＋4）、**繊維製造業－40**（前期比－15、前年同期比－21）となっている。

【採算D I】

今期の採算D Iは全体で－33。前期（－31）比は－2ポイント、前年同期（－29）では－4ポイントとなった。

業種別では、**建設業－32**（前期比－10、前年同期比＋16）、**商業・サービス業－29**（前期比＋21、前年同期比＋2）、**機械金属製造業－25**（前期比－42、前年同期比－5）、**繊維製造業－48**（前期比－12、前年同期比－29）となっている。

【来期業況D I】

来期の業況予測D Iは全体で－27。前期（－21）比では－6ポイント、前年同期（－20）比では－7ポイントとなった。

業種別では**建設業－31**（前期比－18、前年同期比－1）、**商業・サービス業－37**（前期比－1、前年同期比－16）、**機械金属製造業－5**（前期比－35、前年同期比＋11）、**繊維製造業－19**（前期比＋13、前年同期比－9）となっている。

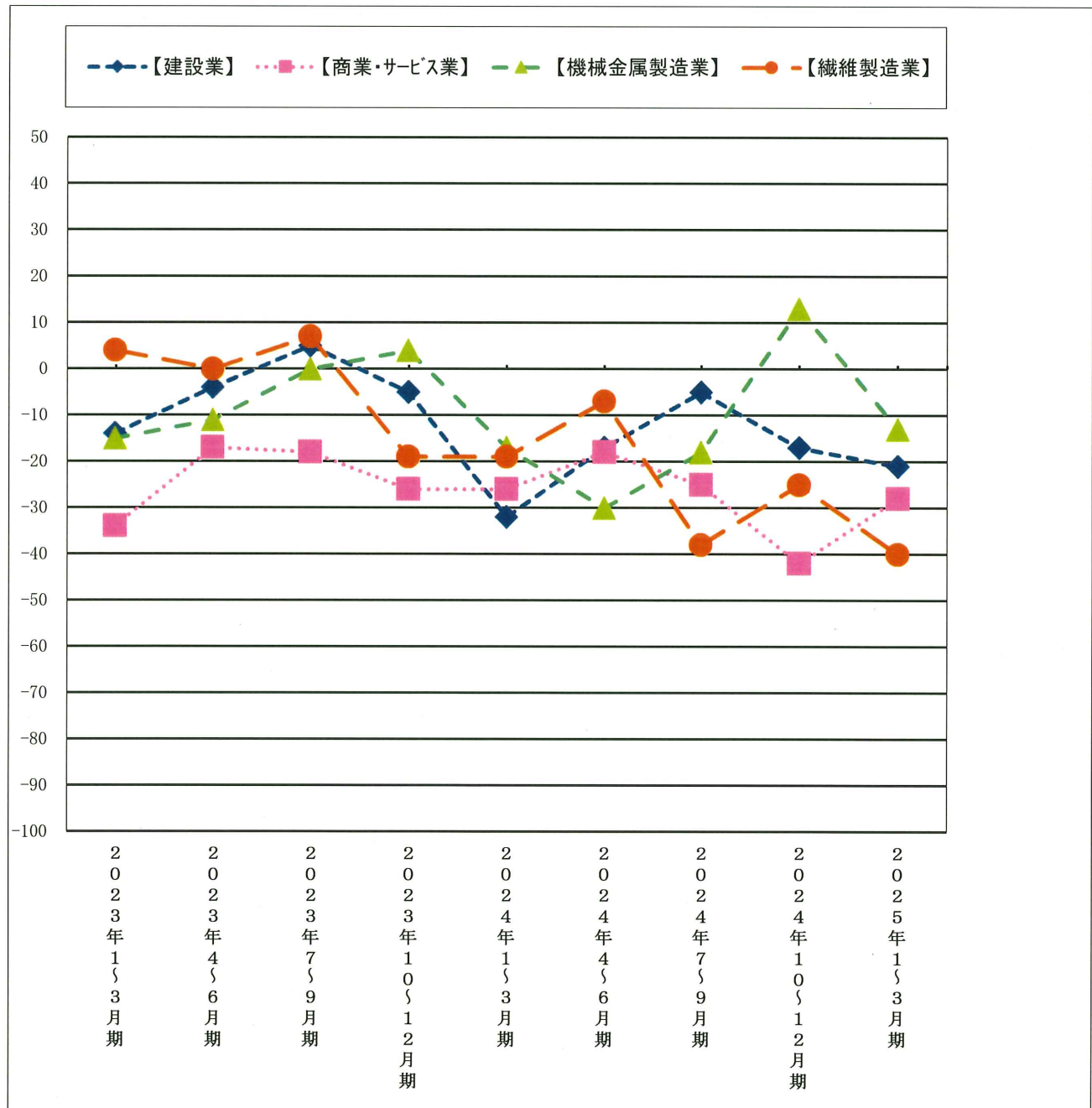
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（23.5%）「従業員の確保難」（13.7%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（21.2%）「人件費の増加」（10.3%）、**機械金属製造業**では「材料価格の上昇」（18.6%）「人件費の増加」（17.1%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（22.5%）「需要の停滞」（16.9%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年1～3月期	-14	-34	-15	4
2023年4～6月期	-4	-17	-11	0
2023年7～9月期	5	-18	0	7
2023年10～12月期	-5	-26	4	-19
2024年1～3月期	-32	-26	-17	-19
2024年4～6月期	-17	-18	-30	-7
2024年7～9月期	-5	-25	-18	-38
2024年10～12月期	-17	-42	13	-25
2025年1～3月期	-21	-28	-13	-40

[2023年1～3月期] から [2025年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

●今期業況

今期の業況DIは－21。前期比は－4、前年同期比では＋11ポイントとなった。

業種別では建築・大工業〔－57〕、土木業〔±0〕、管工事業〔±0〕、鉄骨・鉄筋業〔±0〕、電気工事業〔±0〕、その他〔±0〕ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－31。前期比－18、前年同期比では－1ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

●今期業況

今期の業況DIは－28。前期比は＋14、前年同期比では－2ポイントとなった。

業種別では、卸売業〔±0〕、小売業〔－60〕、飲食業〔－11〕、サービス業では〔＋6〕ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－37。前期比＋1、前年同期比では－16ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

●今期業況

今期の業況DIは－13。前期比では－26、前年同期比では＋4ポイントとなった。

業種別では、鉄鋼業〔－100〕、非鉄金属業〔±0〕、金属製品業〔＋13〕、一般機械器具業〔－100〕、電気機械器具業〔－100〕、輸送用機械器具業〔＋17〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔±0〕、その他〔－67〕ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－5。前期比－35、前年同期比＋11ポイントとなっている。

【繊維製造業】

●今期業況

今期の業況DIは－40。前期比では－15、前年同期比では－21ポイントとなった。

業種別では、捻糸業〔－100〕、織物業〔－9〕、染色整理業〔－80〕、ニット・メリヤス業〔－100〕、レース業〔－100〕、縫製業〔±0〕、刺繍業〔－50〕、その他〔±0〕ポイントとなった。

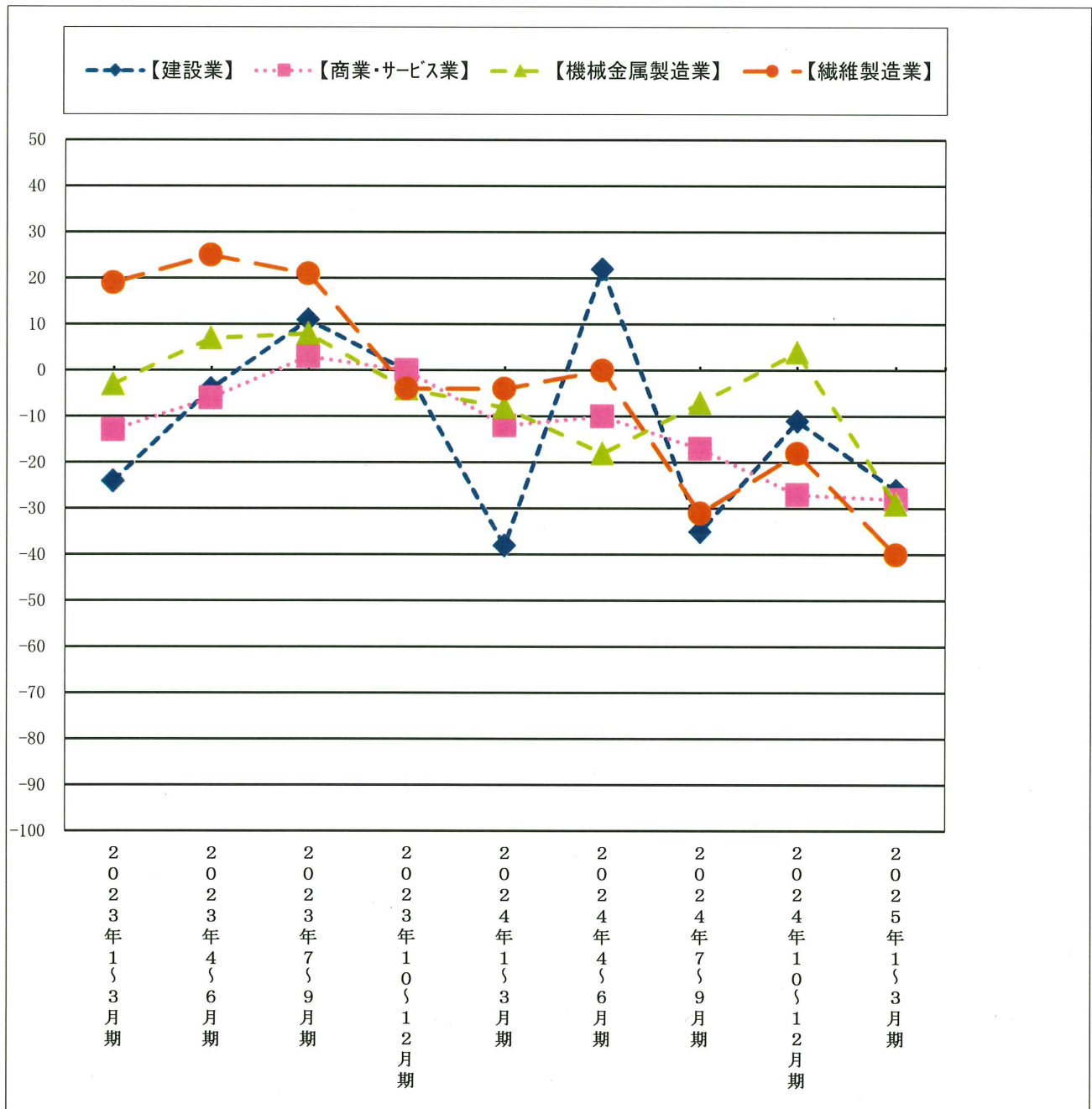
●来期業況

来期業況予測のDIは－19。前期比＋13、前年同期比では－9ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

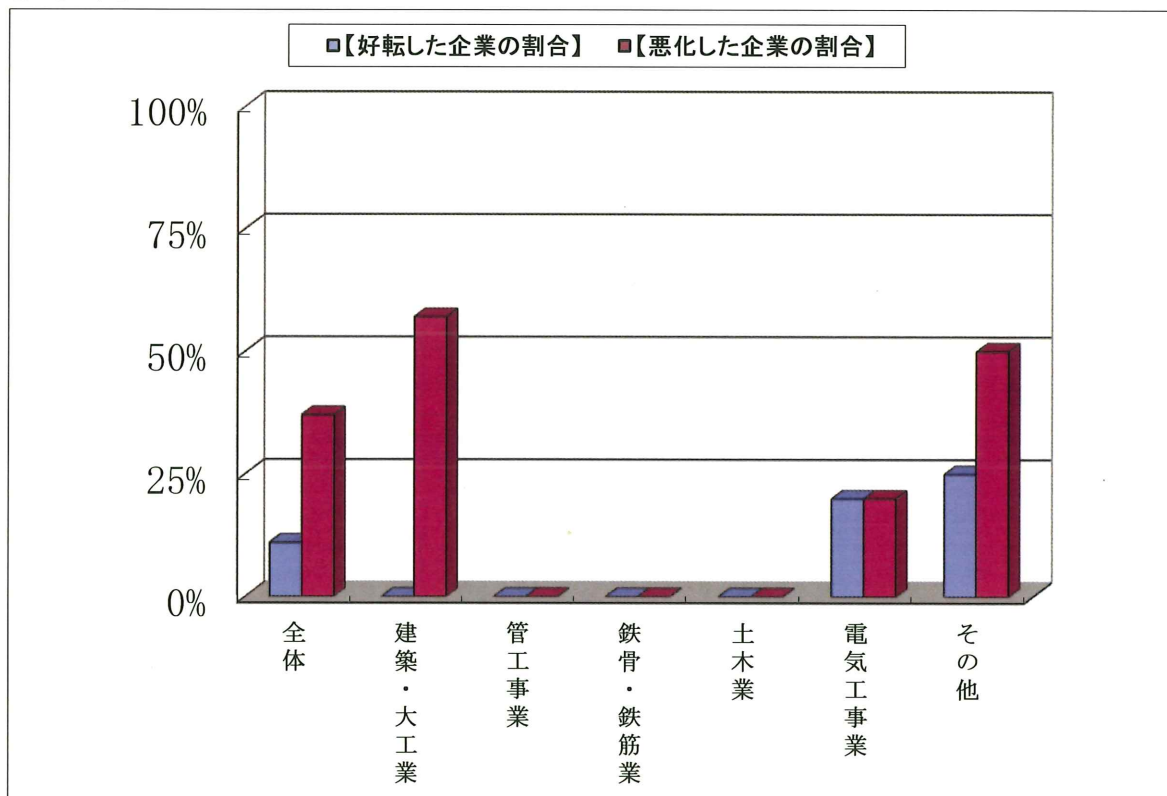
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年1～3月期	-24	-13	-3	19
2023年4～6月期	-4	-6	7	25
2023年7～9月期	11	3	8	21
2023年10～12月期	0	0	-4	-4
2024年1～3月期	-38	-12	-8	-4
2024年4～6月期	22	-10	-18	0
2024年7～9月期	-35	-17	-7	-31
2024年10～12月期	-11	-27	4	-18
2025年1～3月期	-26	-28	-29	-40

〔2023年1～3月期〕から〔2025年1～3月期〕

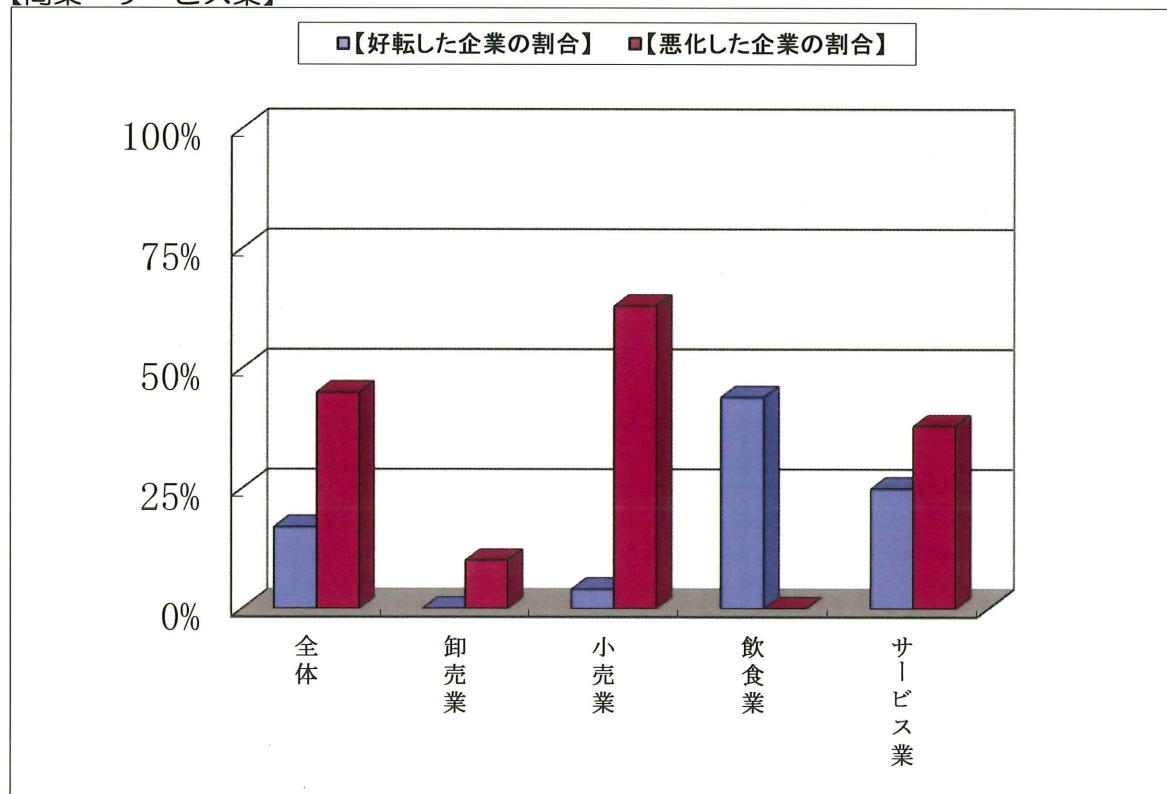


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

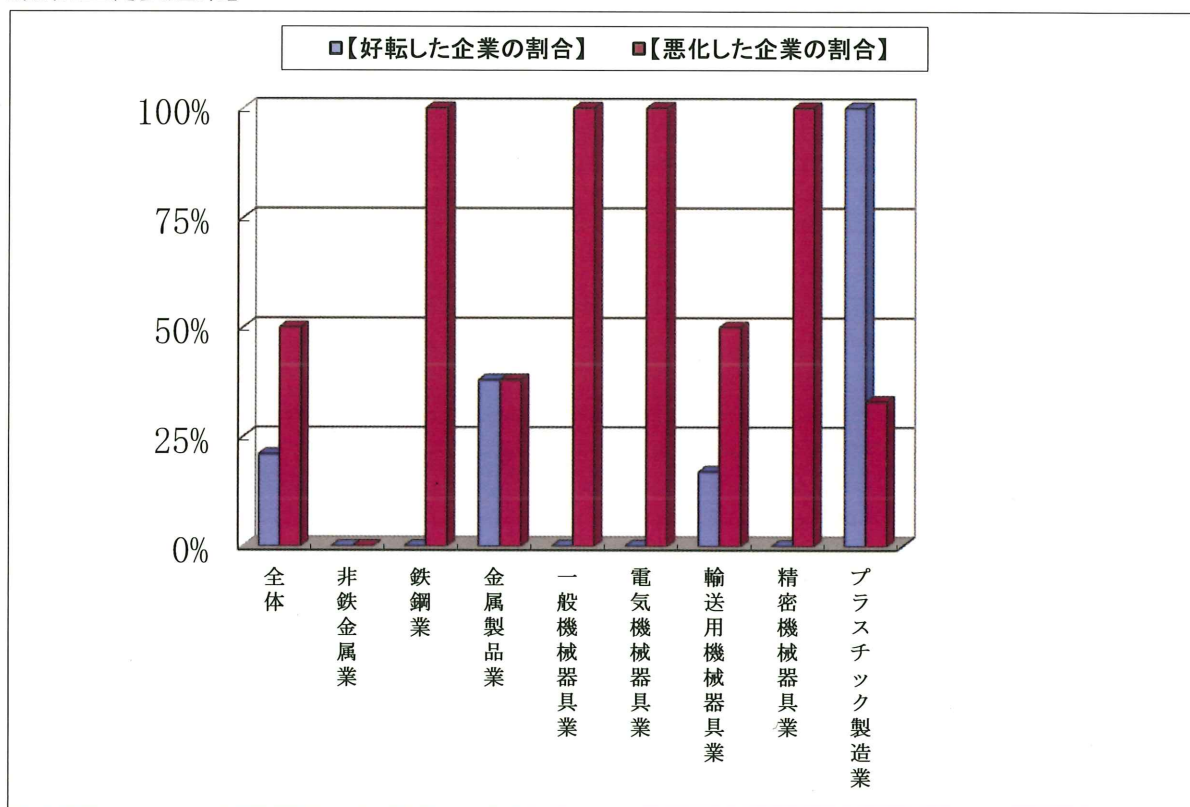
【建設業】



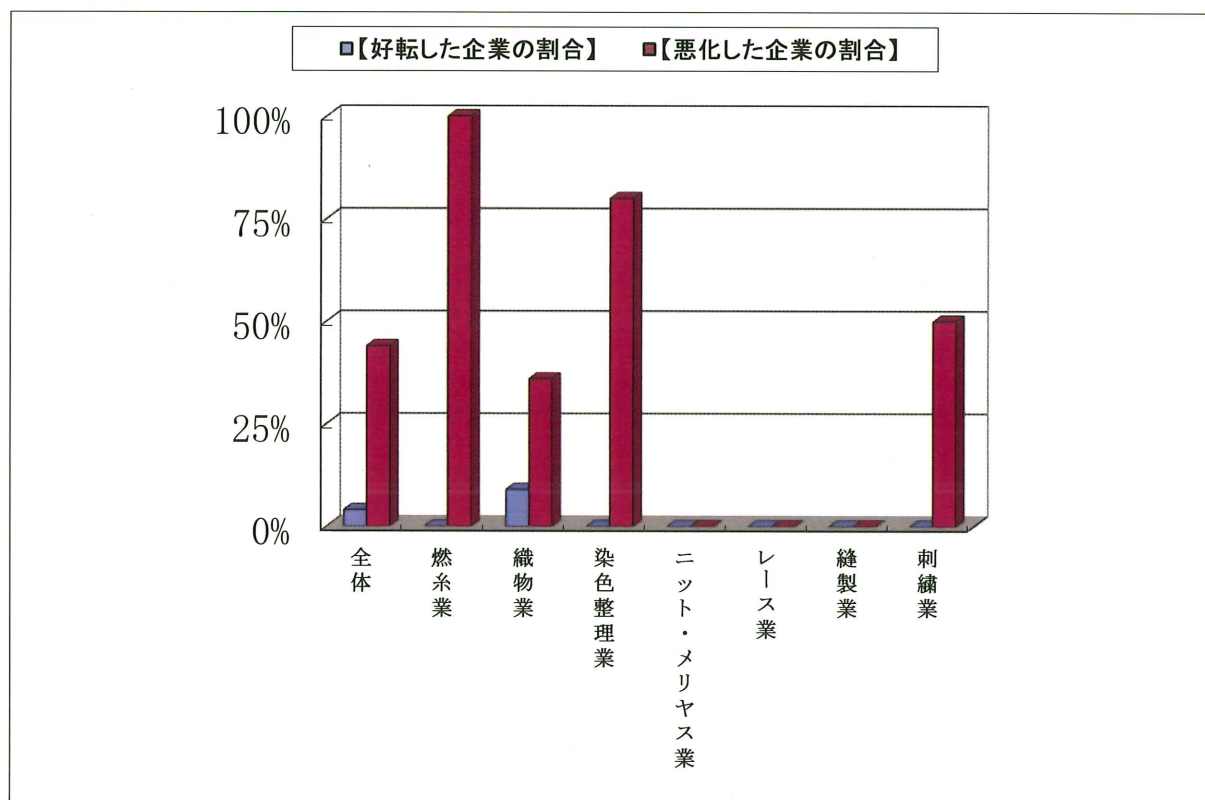
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



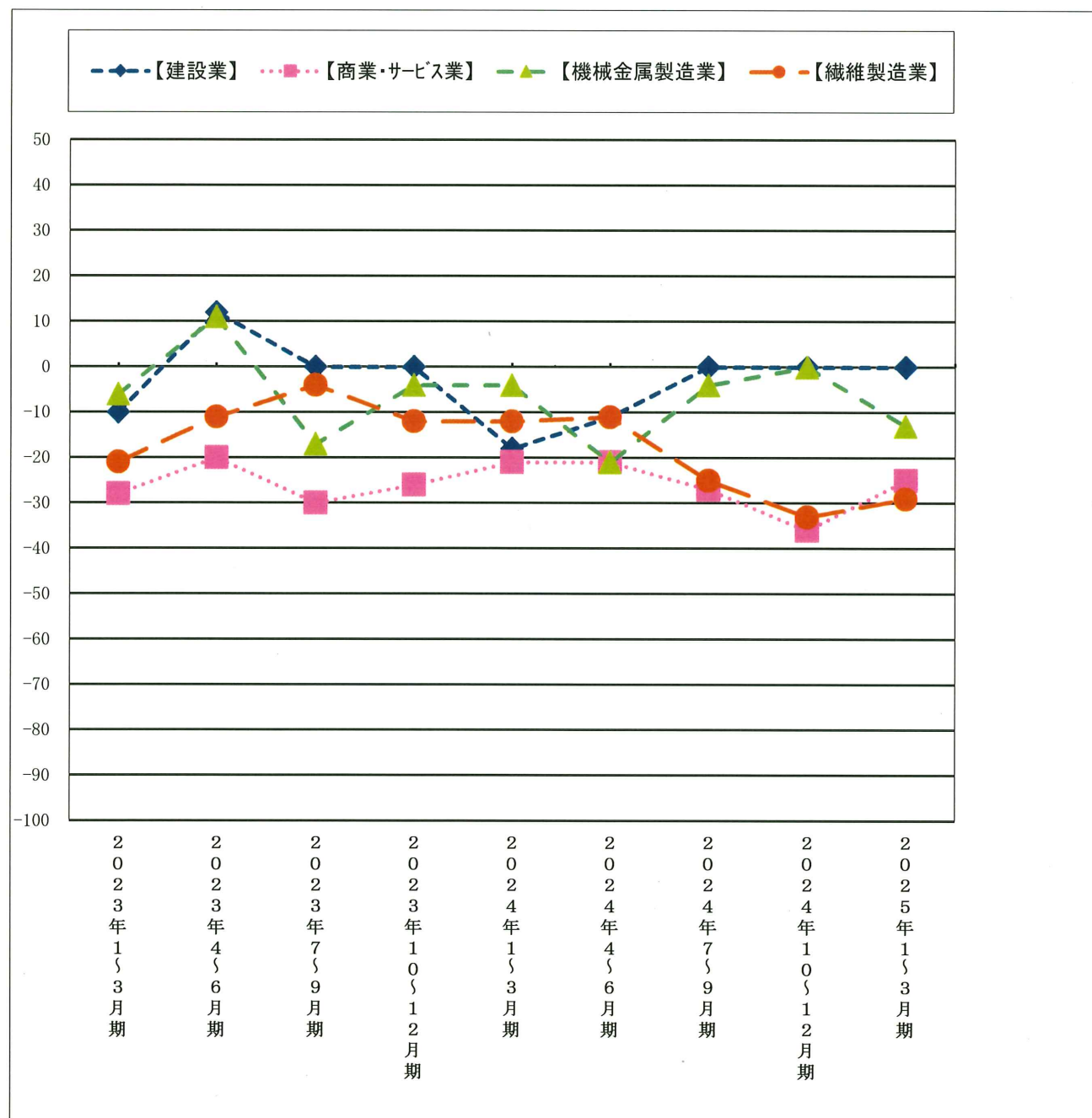
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年1～3月期	-10	-28	-6	-21
2023年4～6月期	12	-20	11	-11
2023年7～9月期	0	-30	-17	-4
2023年10～12月期	0	-26	-4	-12
2024年1～3月期	-18	-21	-4	-12
2024年4～6月期	-11	-21	-21	-11
2024年7～9月期	0	-27	-4	-25
2024年10～12月期	0	-36	0	-33
2025年1～3月期	0	-25	-13	-29

[2023年1～3月期] から [2025年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 23.5	従業員の確保難 13.7	人件費の増加 13.7	熟練技術者の確保難 7.8	民間需要の停滞 7.8
前期	1位 20.8	2位 18.8	4位 6.3	3位 12.5	4位 6.3
前年同期	1位 18.5	2位 16.7	5位 7.4	9位 3.7	3位 14.8
商業・サービス業	材料等仕入単価の上昇 21.2	人件費の増加 10.3	人件費以外の経費の増加 10.3	消費者ニーズの変化への対応 8.9	従業員の確保難 8.2
前期	1位 14.7	4位 9.2	3位 9.8	2位 12.9	4位 9.2
前年同期	1位 17.0	4位 11.4	6位 7.4	5位 8.0	2位 13.1
機械金属製造業	原材料価格の上昇 18.6	人件費の増加 17.1	需要の停滞 14.3	従業員の確保難 11.4	製品単価の低下・上昇難 10.0
前期	3位 13.4	5位 9.8	2位 14.6	1位 19.5	4位 11.0
前年同期	3位 12.2	5位 10.8	1位 16.2	2位 14.9	3位 12.2
繊維工業製造業	原材料価格の上昇 22.5	需要の停滞 16.9	生産設備の不足・老朽化 12.7	製品単価の低下・上昇難 12.7	原材料費・人件費以外の経費の増加 9.9
前期	2位 17.1	1位 21.1	3位 11.8	9位 3.9	5位 9.2
前年同期	1位 16.9	2位 14.1	4位 11.3	2位 14.1	4位 11.3

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・社員及外注費更に材料費等上昇の状況であるが、客先及元請先様への工事価格、値上交渉の成功率は20%程度が現状である。今後当社が望む値上額を客先にご理解して頂き、値上交渉率アップを実行させるには、お客様に「当社が何をなすべき」かを思案中
- ・引合いはそれなりにあるものの、価格面で発注者との折合いが付かないケースが多い
- ・市況悪化の長期化と業界の高齢化による次世代経営への懸念
- ・不動産物件単価の減少

〔商業・サービス業〕

- ・インフレに賃上げが追いつかない。個人消費が冷え込んでいる（食料品、ガソリンが高すぎる）人手不足（欲しい人材が来ない）金利が上がって来ている（金利負担が増えそう）
- ・商店街の店舗が少なくなり、人出が減少している。物価高騰で商品仕入も厳しい
- ・高齢化による顧客数減少
- ・購買状況の変化。ネット販売の増加。在庫状態が検討つかない
- ・受注、在庫商品の入荷遅延
- ・都内の長期出張が多いため、宿泊費など経費が増加していることから賃金上昇が厳しい状況
- ・ランニングコストの経営圧迫、人件費引上げの影響にて景況状況は厳しい
- ・店舗前の道路工事により客足が遠のき減少傾向が続く。入りずらく出づらい
- ・仕入れの食材の上昇が止まらない。すべて価格転嫁できず厳しい状況。人件費も防御的賃上げにおいて現状悪いインフレの状況
- ・人口減少が続く中、低単価の家族層を中心とした新たな葬儀社が進出し、営業も難しい状況下
- ・103万円問題、パートの時給が上がる一方、働く時間が少なくなっている。社会保険料等の負担が大きく、従業員、経営者ともに苦しんでいる

〔機械金属関連業〕

- ・前期は4月～3月にかけて段階的に売上増となったが、今期は前期のトレンドが前半はある程度継続したが後半は反動を受けて売上減となっている印象
- ・主に自動車、鉄鋼の景況に左右されやすく、来期見通しは大変難しいと思われる
- ・昨年中に大手企業からの支払条件が変更（現金化）され資金繰りは改善された。製品単価改善は交渉の機会は増えたが30年続いたコストダウンにより、客先調達窓口の方々は適正単価の判断がつかない為、成果は小さい
- ・先行きはまだら模様。人材確保が難しい中で賃金の上昇圧力も高まっており、このままではいずれ経営が成り立たなくなるのではと懸念

〔繊維工業〕

- ・一般のお客様が物が買えなくなっている。ニーズに合わせようとした時、原材料がないし熟練技術者がいなくなった。このままでは桐生織物は行き尽く。有能なコンサルティング者がいないか、技術と資金、情報が欲しい